

# カゴノキ

*Litsea coreana* H.Lév.

## クスノキ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

該当なし

### 選定理由

県内でただ1箇所だけに生育する。植物地理学上きわめて重要である。(現況:RO)

### 形態

樹皮は紫黒色で古くなると斑点状にはがれ落ち、灰白色となり、幹が鹿の子模様となる。葉は互生し、葉柄がある。表面は暗緑色で光沢があり、裏面は粉白色を帯びる。葉腋に小さな黄色の花を密生させる。

### 国内分布

本州(関東地方以西)~九州、南西諸島に分布する。

### 県内分布

中能登区のヤブツバキクラス域に分布する。

### 生態など

高さ15mの雌雄異株の常緑高木である。モミが優占し、イイギリ、スダジイ、ヤブツバキ、ベニシダ等の優占度の高い植物群落中に生育する。草本層にも比較的多くカゴノキの幼木が見られる。開花期は8~9月。花色は黄緑色である。果実は液果で球形、約径8mm、翌年の7~8月頃に赤色に熟する。

### 生育環境

標高20~40mの高さで傾斜ほぼ40°の北西斜面に成立しているモミ林中に生育している。モミの大木が多いため生育立地に達する光は少なく、林床はやや暗い。

### 危険要因

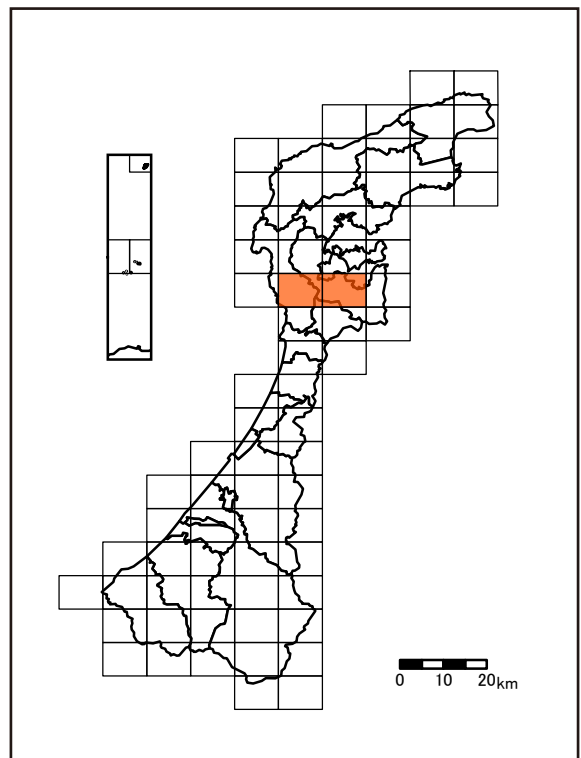
森林伐採、産地局限。

### 特記事項

生育地は特定植物群落に指定されている。日本海側の北限である。



小牧(1987)より引用



県内の分布